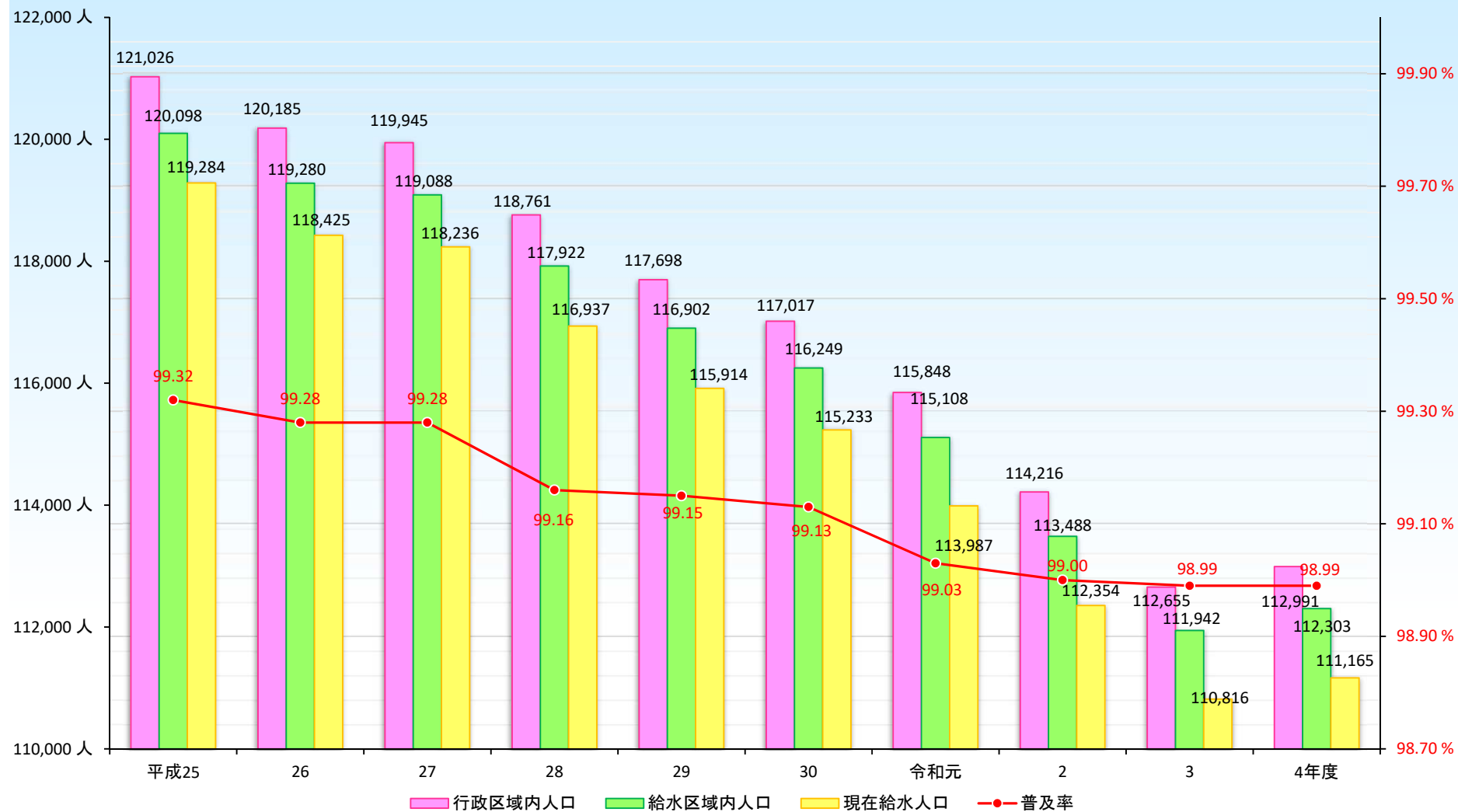


給水人口と普及率



※大正6年に通水を開始した別府市の水道は、8期の拡張工事を経て現在では、給水区域内普及率は約99%となっています。

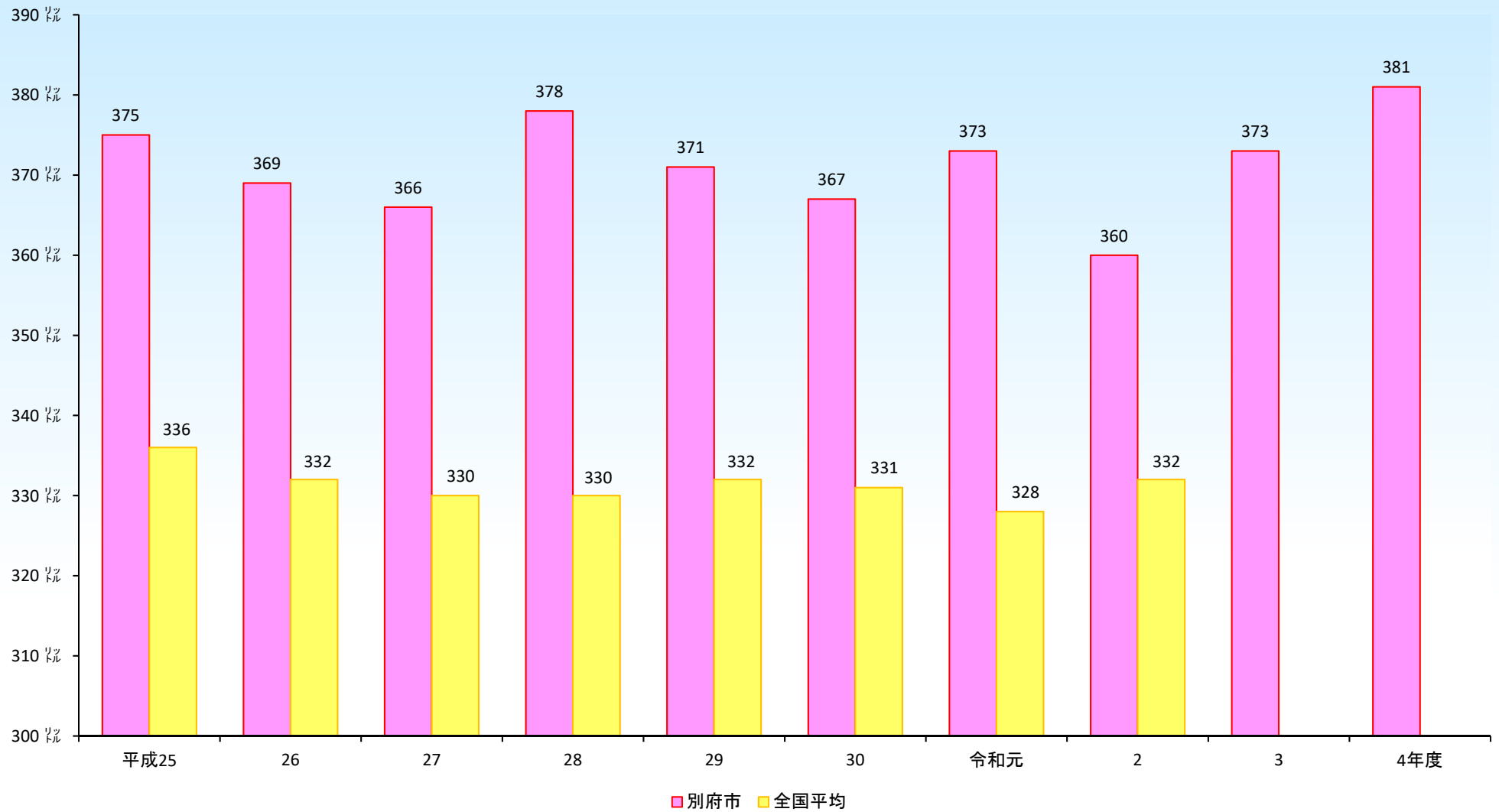
年間総配水量・年間総有収水量



年間総配水量、年間総有収水量ともに行政区域内人口にほぼ比例して増減しています。

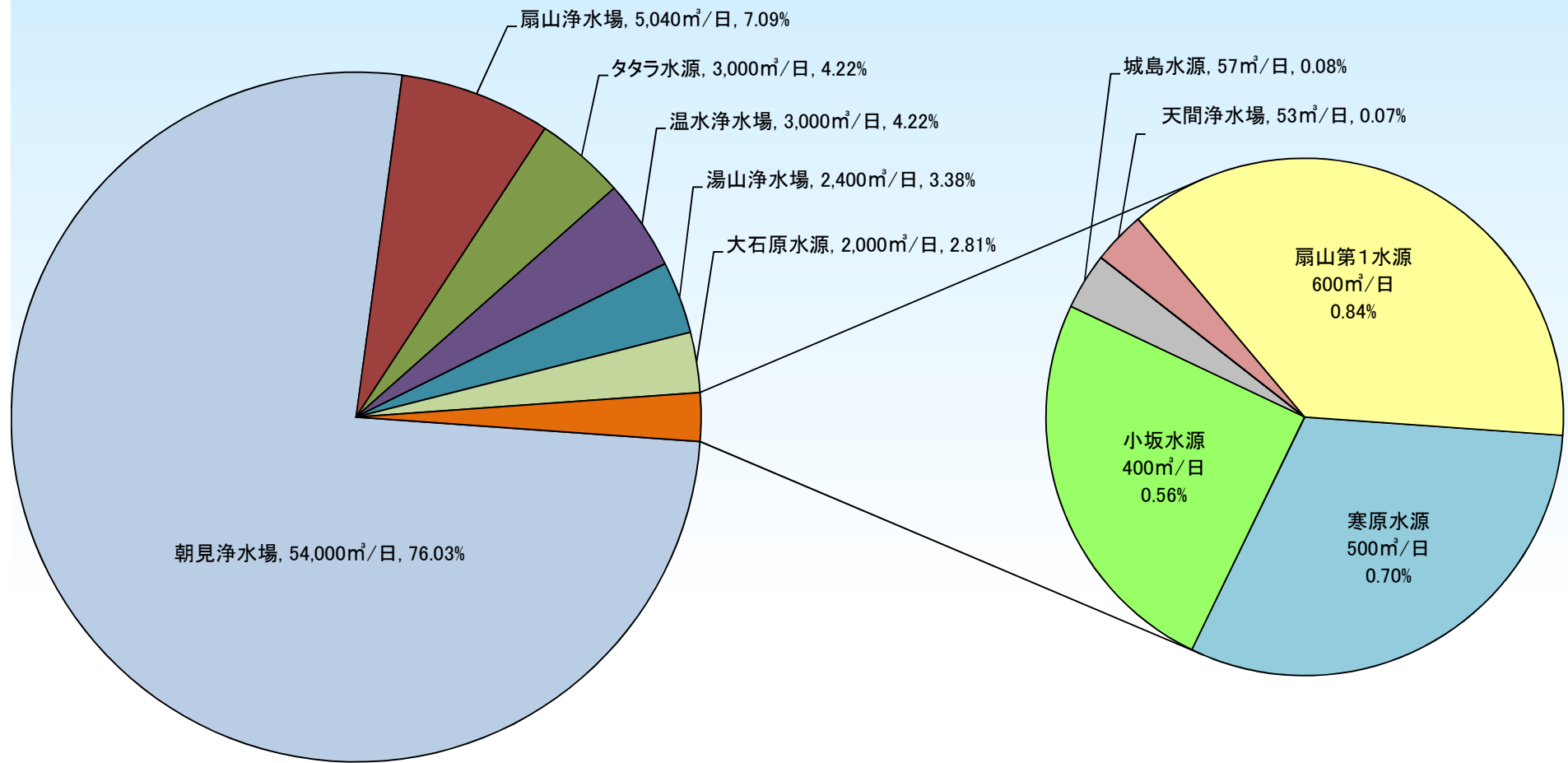
※年間総配水量は取水された水量のうち、飲み水として浄水場から配水された水量。年間総有収水量は年間総配水量のうち、料金収入となった水量。有収率は年間総配水量のうち、年間総有収水量の占める割合となります。

1人1日平均配水量



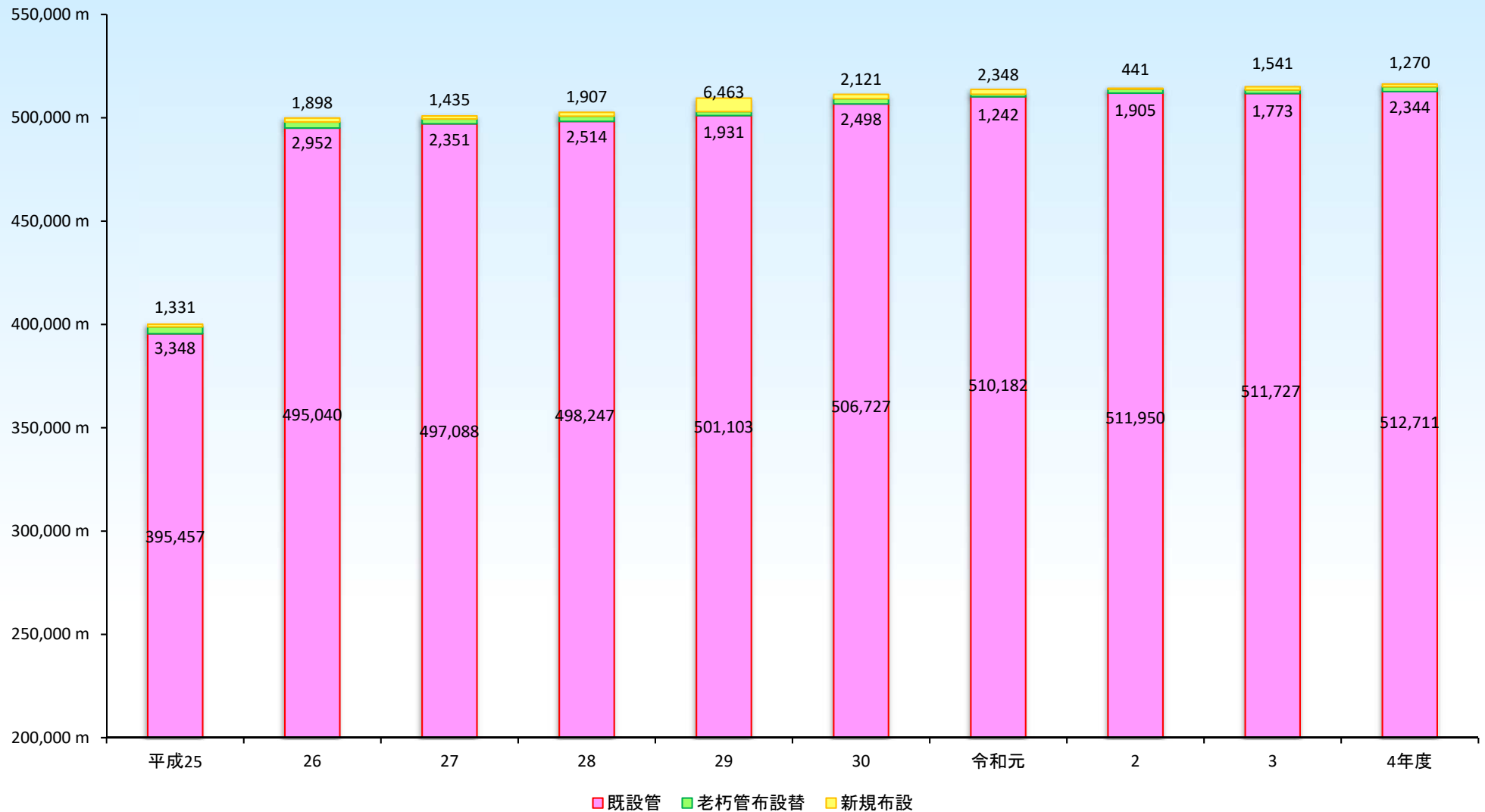
※別府市は観光都市としての特性により、観光客等の給水人口には表れない流入人口によって、1人1日平均配水量では全国平均に比して大きなものとなっています。

配水能力



※別府市は、表流水(4か所)、湧水(3か所)、地下水(9か所)の計16水源からの取水を行っていますが、そのほとんどが中小水源であり、約65%以上を行政区域外の大分川から取水しています。

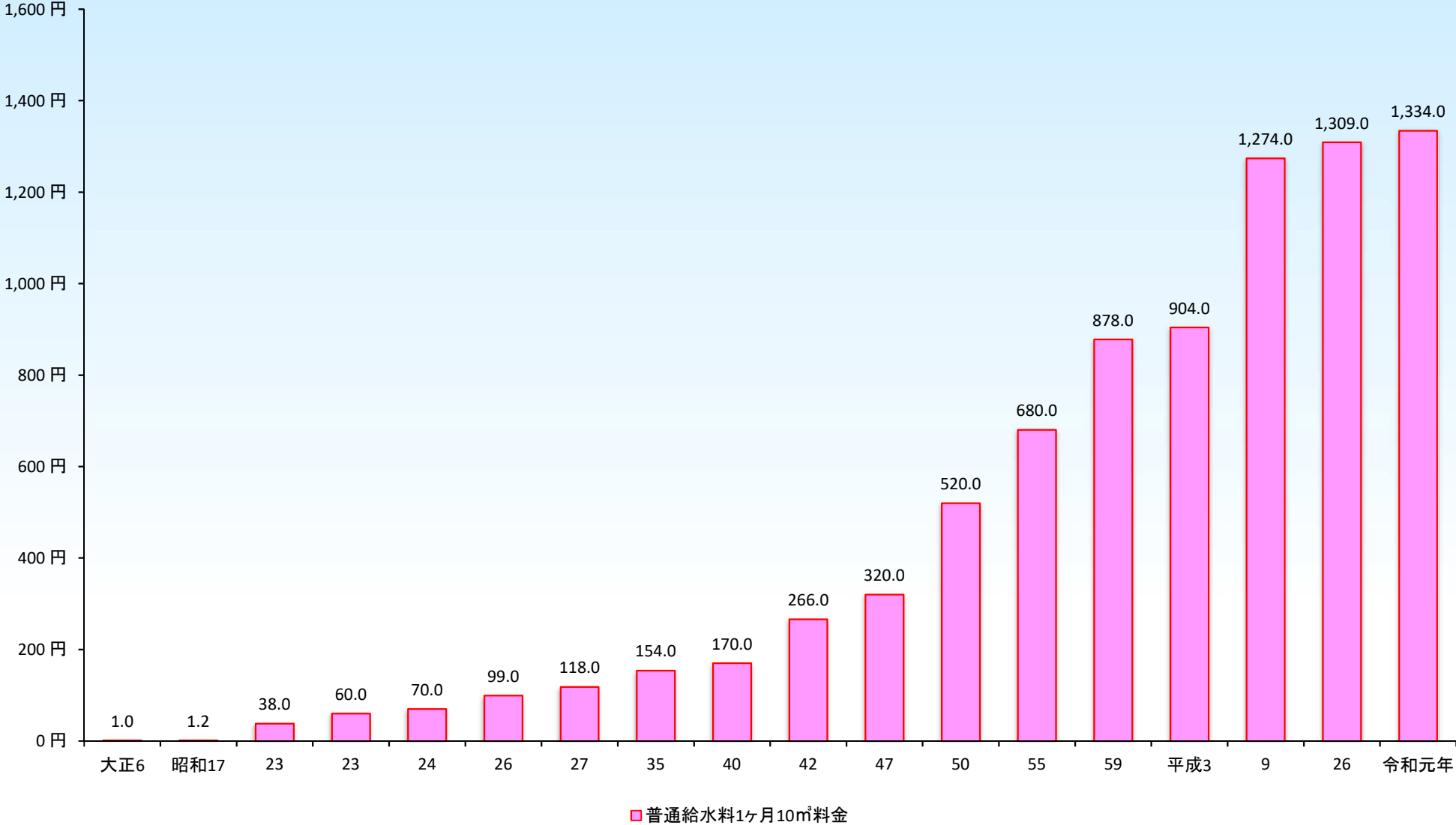
配水管総延長



※管路延長は事業の伸張によって大きく伸びています。ちなみに令和4年度末での管路総延長516,325m(配水管のみ)を新幹線の距離に置き換えると、北九州市の小倉駅から山陽新幹線の新神戸駅あたりとなります。

なお、平成26年度の著しい増加は口径50mm以下の管を配水管として管理することに変更したことにより生じたものです。

料金の移り変わり



※創設以来、約100年間で水道料金は物価スライド等によって約1,300倍となっています。

他市との料金比較

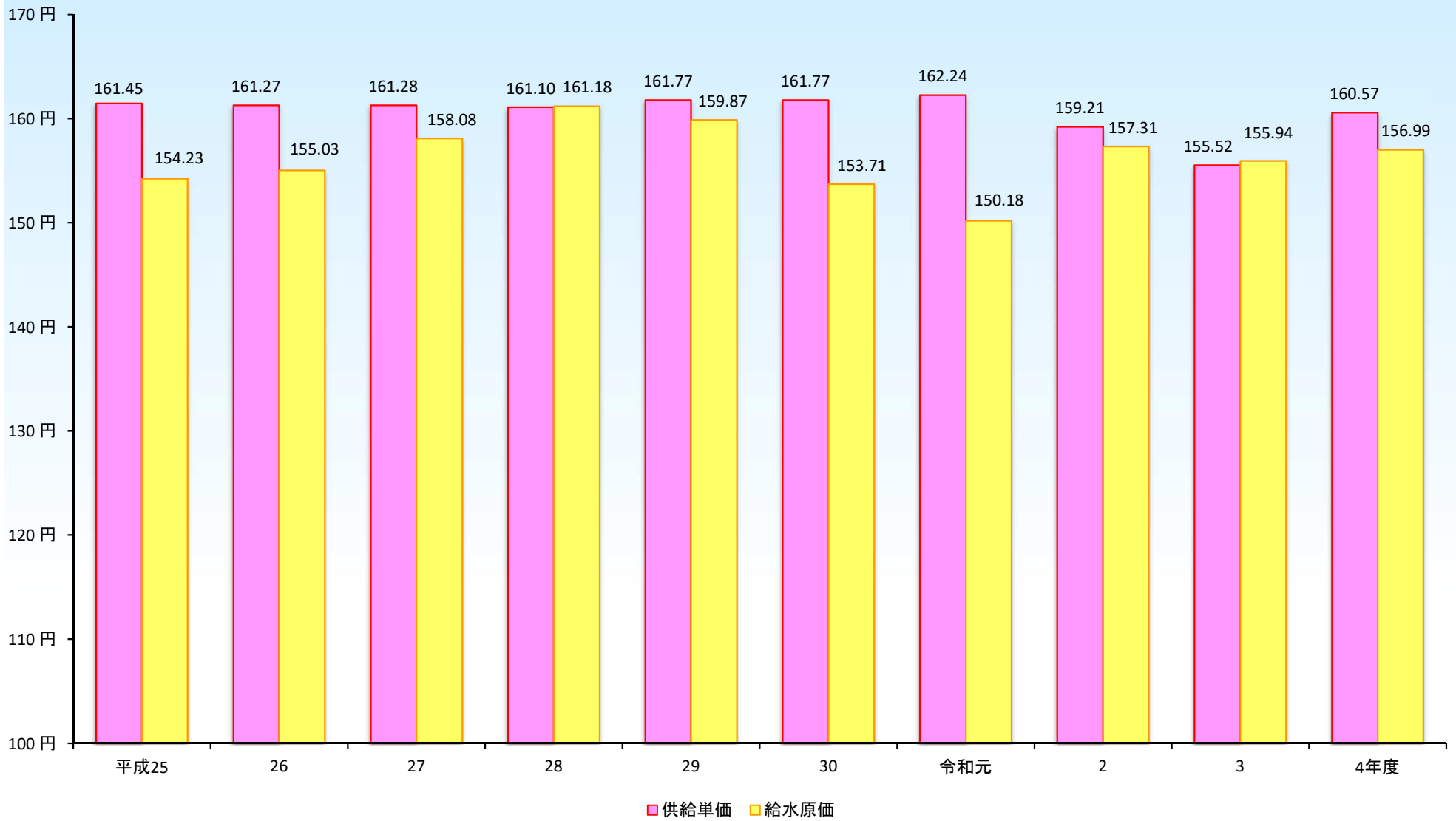
※令和4年4月1日 現在



※別府市は水源が16か所にわたり、これを含めた施設が多いことや、またその地勢が傾斜状となっていることによって、浄水場から配水池までの水の押し上げに多額の動力費が必要となっています。

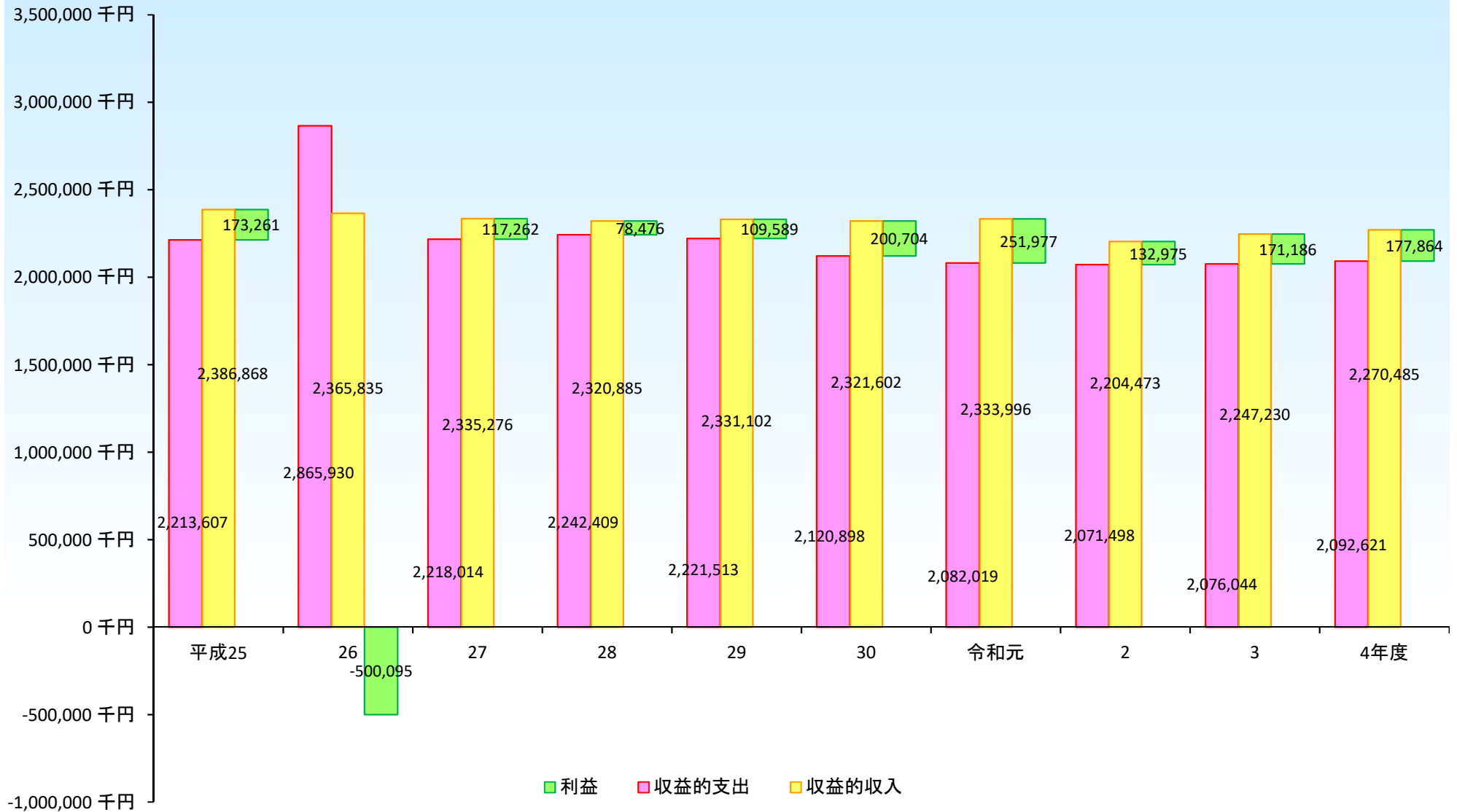
その費用は類団平均や全国平均と比較しても大きなもので、これがコストに反映されていることからいえるように、料金の高低はそれぞれの事業者の水源事情や地域特性等に大きく影響されるため、一概に比較することはできませんが、別府市の料金水準(用途別、口径別ともに「家庭用 10m³/月使用時、メータ使用料含む。」)は現状で県下14市の中で10番目となっており、全国平均からみて低い料金水準となっています。

供給単価 と 給水原価



※供給単価及び給水原価は、それぞれ収益及び費用を年間総有収水量で除したもので、1m³の水を使用した場合の収益と費用を表しています。

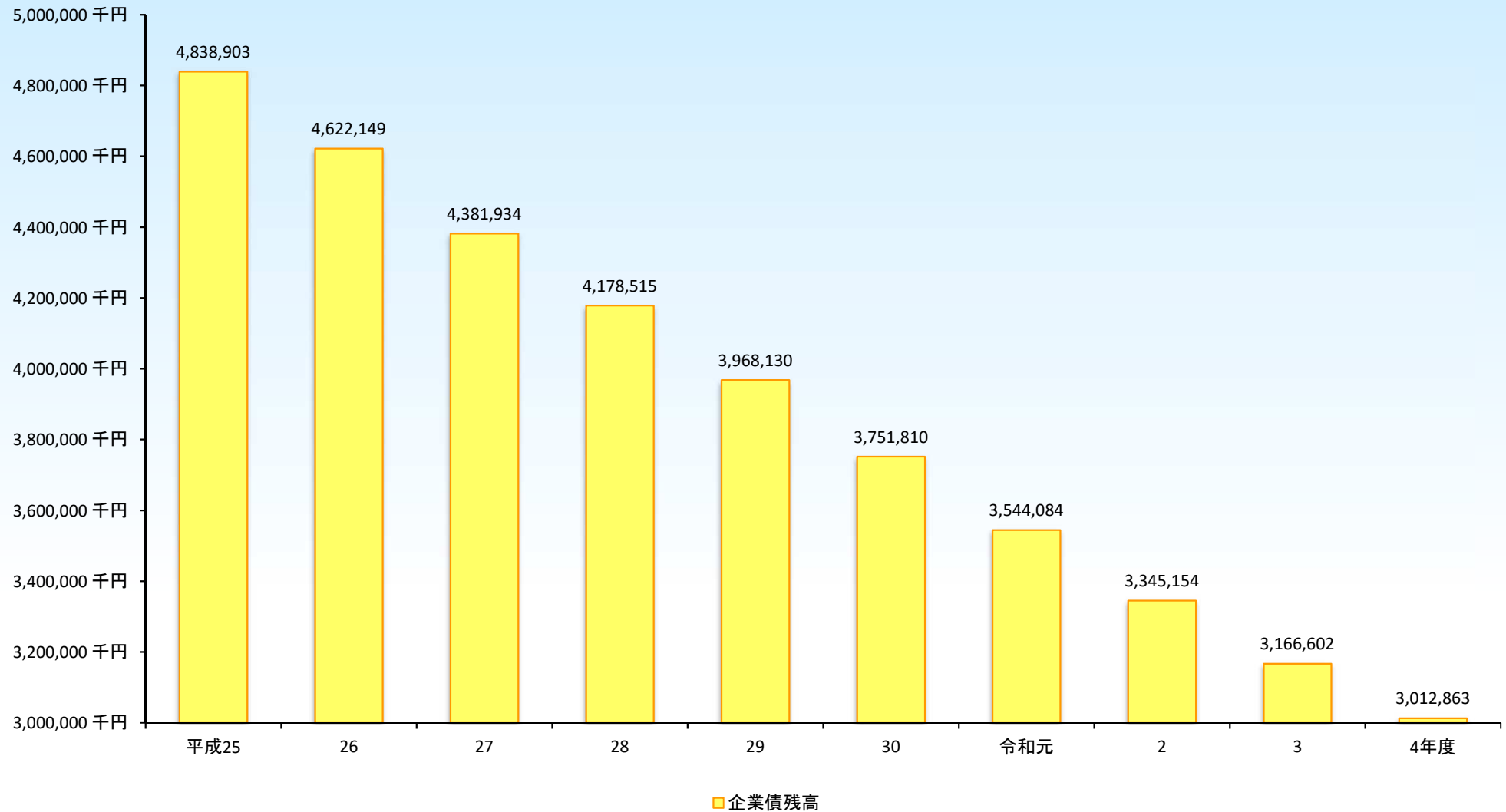
年度別収支及び利益推移



※収益的収入については、水道料金がそのほとんどを占めており、一方、収益的支出については給料・手当等の職員給与費や、検針などの委託料、ポンプを動かすためなどの動力費、さらに、資産の取得に伴う減価償却費、企業債の支払利息等によって構成されています。

なお、収益的収支で発生した利益については、民間企業で言うところの「もうけ」とは異なり、資本的収支の不足額を補てんするための財源となります。

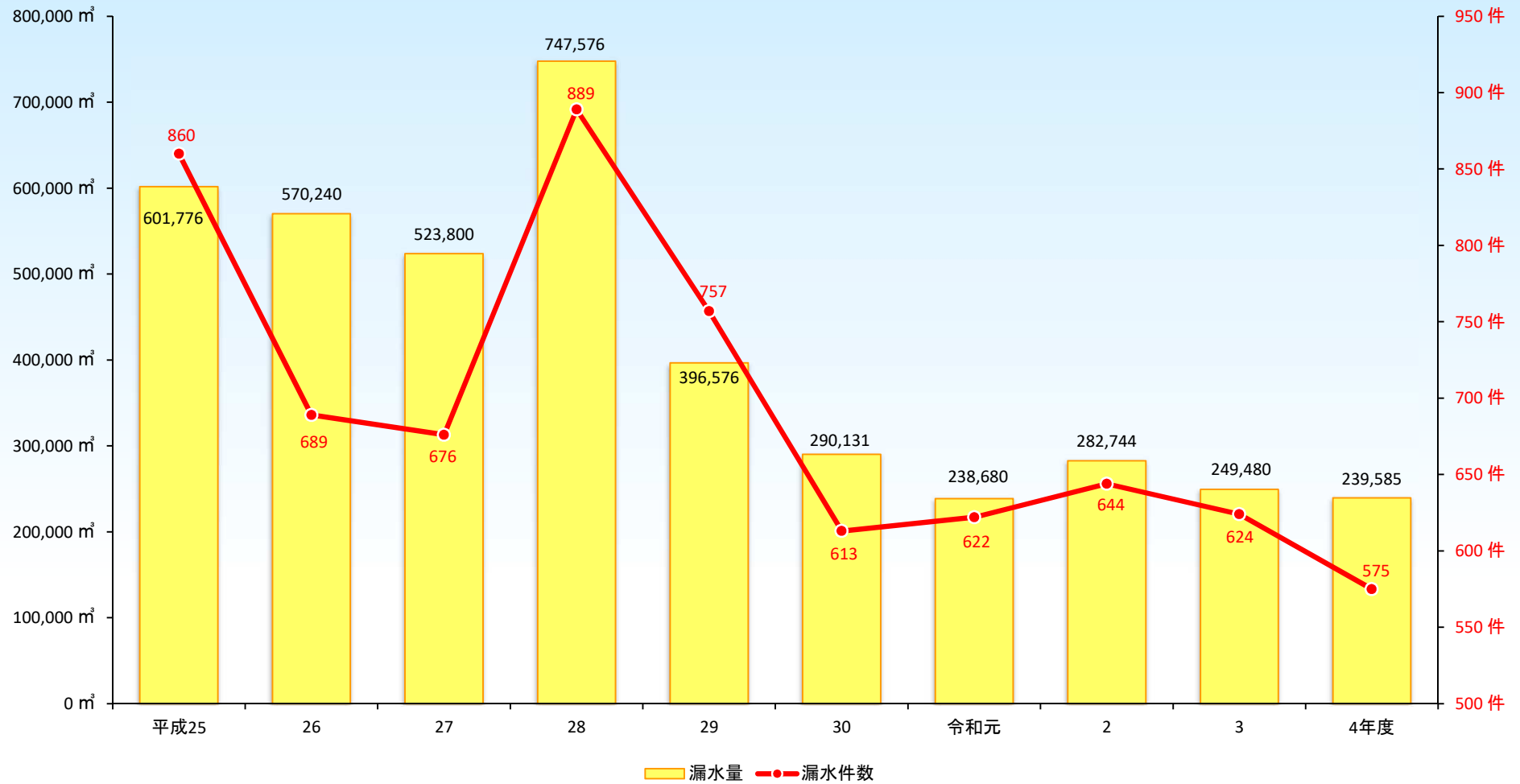
企業債残高



※水道事業は巨額のインフラ設備が必要となりますが、施設の建設や改良に要する経費は内部の資金で賄えないため、国等からの借入金である「企業債」によって資金を調達しています。

平成12年度までは事業の増大によって増加傾向にありましたが、近年は暫時減少傾向に転じています。

漏水状況



※別府市の漏水件数は、①戦災を受けなかったため管路が古い②温泉管との併設が原因で管路が腐食し漏水が起きやすいなど、地域の特性による地下漏水が多くなっています。

近年、配水管整備事業や漏水調査の成果に伴い、漏水件数、漏水量ともにほぼ横ばいの状況となっています。